

小さなビジネス支援掲示板がもたらしたもの～そしてこれから
- 竹の塚図書館におけるビジネス支援事業 -

04年8月

竹の塚図書館 新井恭子

はじめに

全紙大とその半分の大きさのビジネス支援掲示板を柱の前面と側面に掲げることにより、竹の塚図書館のビジネス支援事業が始まった。ビジネス支援図書館としては、あまりにもささやかな出発であった。しかし、このことが図書館の識者に周知され、またメディア等にもとりあげられ、自治体からの視察や問い合わせがあいついぐことになるとは当初は思いもしなかったことである。

ここに掲示板から始まった竹の塚図書館のビジネス支援事業の経緯を振り返り、分析し、ビジネス支援図書館の今後の方向を探っていきたい。

当レポートは以下の順で述べることとする。

1. ビジネス支援図書館との出会い
2. 竹の塚図書館のビジネス支援図書館事業の概要
3. 事業のポイント
4. 事業の成果
5. これからの事業展開

1. ビジネス支援図書館との出会い

筆者は、1999年4月から3年間小平市立中央図書館で嘱託職員として勤務していた。在勤中通信教育の短大の司書過程で学び司書資格を取得した。この時、小平市立中央図書館にはビジネス支援図書館推進協議会の幹事である蛭田氏が上司にいて多大な影響を受け、また、菅谷明子氏の「進化するニューヨーク公共図書館」(1)の記事についても話し合った。折りよく2000年11月に図書館総合展で行われた菅谷氏の講演「進化するアメリカの公共図書館」を聴講してあらためて、アメリカの公共図書館の素晴らしさを知るとともに、また2000年もあとわずかと言う日に、蛭田氏からビジネス支援図書館推進協議会(2)が立ち上がったというのを聞いて胸を躍らせた。2001年7月にはビジネス支援図書館推進協議会の第1回シンポジウムが東京電機大で行われ、事業のコンセプトにおおいに共感し、すぐにビジネス支援図書館推進協議会に入会した。このことが竹の塚図書館のビジネス支援図書館事業の第1歩に繋がっていくことになる。

2. 竹の塚図書館のビジネス支援図書館の概要

ビジネス支援図書館を始める

小平での嘱託期間満了に伴い、足立区の非常勤図書館長の試験を受け、2002年4月から筆者は足立区立竹の塚図書館で勤務することとなった。竹の塚図書館は足立区にある中央館を除いた15地域館のうちの一つで、広さ544㎡蔵書数約7万5千冊の小規模な図書

館である。駅に近いので貸出しは年間約 26 万冊と比較的多いほうである。

竹の塚図書館でかねてからの想いであるビジネス支援図書館事業を始められないかと考えていた。幸いにして着任 3 ヶ月後の 2002 年 7 月、小さいながら最初のステップを踏み出すことができた。竹の塚図書館では、スペースの関係上ビジネス書籍の棚は設置することはできなかったため、まず館内フロアの幅 80 c m の柱にビジネス支援の掲示板を作ることにした。特別な資料購入の予算もないため、この掲示板には区の広報紙や「広報東京」の求人情報の切りぬき、各公共機関から送付されてくる就業支援や中小企業支援のチラシなどを掲示することにした。期日が過ぎた切りぬきやチラシは撤去してファイルに入れて保存している。今ではそのファイルが 4 冊目になっている。ビジネス支援図書館推進協議会で作成された「ビジネス情報源」の案内 13 枚も置いた。とにかく少しでも、仕事、ビジネスに関係すると思われるものは就業支援、中小企業支援、起業支援等なんでもこだわることなく掲示した。また、この掲示板に貼りきれないポスタ - 類等は一般書架の側面に掲示している。

この当時、事業で使ったお金は始めに百円ショップで買った三個ほどのケースだけである。あと読書週間の記念品で贈られたラックなどやもらったものを掲示板周りのチラシ置きとして使っている。考えてみると予算はもちろん、場所無し、人手無しの 3 無しで始めた事業であった。しかし、今考えてみればこの 3 無しが良かったのかもしれない。この時期は公共図書館のビジネス支援はあまり図書館界で知られていなかったから、予算や場所を使ったり、職員の手をわずらわせていたら、様々な反発があったかもしれないからである。

次のステップ

2002 年 9 月からはビジネス支援掲示板の近くに新聞の折り込み求人広告のファイルを設置した。ここには毎日曜日に 7、8 種の折り込み求人広告を入れ、3 ヶ月単位で綴っている。この求人広告にはハローワーク情報よりもっと身近な自転車で通勤できるくらいの職場が紹介されている。図書館での利用を見ていると、これが頻繁に利用されているのに気づいた。その年の 12 月頃、ビジネス支援掲示板に貼っておいた情報を利用している方と言葉をかわしてみた。「店を持ちたいと思っているので経営のことなら何でも知りたい」とのこと。そこで一緒に検索して本を探したり、小平市立中央図書館で行われる予定のビジネス支援図書館推進協議会共催の起業セミナーの案内をした。その後、「館長の御気持ちが本当にうれしい」と礼状をもらった。この利用者はこの後「さざれ」というきものリサイクルショップを開店する起業家となった。このことをビジネス支援図書館推進協議会のメーリングリストに書いたらたくさんの方から励ましが届き、2003 年 2 月にはビジネス支援図書館推進協議会の竹内会長に視察していただいた。

通勤の乗り換え駅で無料の「しごと情報誌アイデム」を配布しているのを見かけた。これは毎週発行なので、ぜひこの事業で使いたいと考え、当該会社に一部竹の塚図書館に送付して欲しくないかと電話すると「良い話だから」と担当者と上司 2 人で来館され、相談

の末、2種類各50部計100部を図書館の入り口と掲示板のところに設置することになった。このことは当該会社でも公共図書館に設置できたのは嬉しいことだと社内報で周知されたそうである。この資料は配送が遅れたりすると利用者から問い合わせがあるなど人気があり、毎週100部がほとんどなくなっている状況である。

2003年5月地域資料はビジネスに役立つはずなので、アクセスし易くするために12色のテプラテープによる分類の「竹の塚図書館地域資料整理基準」を作成した。参考にしたのは「地域資料入門」(3)である。福祉施設で実習したいという専門学校の学生さんが足立区の福祉施設のリストが欲しいと来館されたが、行政資料の「福祉概要」の後ろに福祉施設一覧があった。NDC分類+色分類で見つけ易くなったのではないかと考えている。

初めての評価およびネットワーク化

2003年7月RIETI(4) ビジネス支援図書館推進協議会共催の第3回シンポジウムで竹の塚図書館のことが紹介される。又、シンポジウムのスピーカージェニファー・コーエン氏の話に刺激され足立起業家交流会「めいげんその会」に出席、区産業経済部新産業支援課との繋がりも出来る。「めいげんその会」で欲しいビジネス書のアンケート調査も行った。

* その後の経緯

- 2003年8月 鳥取県立図書館よりシンポジウムの議事録を見たということで視察。
- 2003年9月 産業経済部新産業支援課より視察。
- 2003年9月 産業経済部雇用促進担当副参事が竹の塚図書館に「しごと情報誌アイデム」設置を聞き来館、協力要請される。
- 2003年10月 竹の塚図書館で学んだ起業家きものリサイクルショップ「さざれ」開店
- 2003年10月 国民生活金融公庫千住支店から訪問、出版物設置依頼を受ける。
- 2003年10月 「ヤングジョブスポット北千住(5)」を訪問、連携を確認。
- 2004年1月~ ハローワーク足立より求人情報リスト毎週送付され始める。
- 2004年2月 区議会議員5名順次竹の塚図書館視察。
- 2004年5月 予算削減で空いた雑誌書架に大型活字本を移動、旧大型活字本の棚に緑に白抜きビジネスシールを貼ったビジネス書籍別置。このシールは中央図書館の方法と連動している。掲示板からビジネスコーナーに昇格。大型活字本の利用者から苦情はなく、目立つところに移動したため利用が増えた。
- 2004年6月~ 中小企業庁チラシがビジネス支援図書館推進協議会の仲介で送付され始める。
- 2004年7月 静岡でのビジネスライブラリアン講習会受講。他館と有意義な交流。

* 新聞記事掲載など

2003年8月23日 読売新聞「ビジネス支援図書館」

- 2003年9月12日 日経産業新聞「図書館は意外に使える」
- 2003年10月号 月刊社会教育「日本におけるビジネス支援図書館はどう広がって…」
- 2003年9月19日 菅谷明子著岩波新書「未来をつくる図書館P228」
- 2004年1月30日 朝日新聞西部本社版「図書館がビジネス支援」
- 2004年2月3日 エコノミスト「公共図書館が『ビジネス支援』に動き出した」
- 2004年2月9日 NHKラジオ第1放送 18:00~18:50 ラジオタ刊「あすの図書館」で
竹の塚図書館に菅谷明子氏言及
- 2004年3月25日 日経新聞「事業に悩んだら図書館へ」
- 2004年7月号 雑誌ザ・リバテイ「図書館はビジネス支援の切り札になるか？」
- 2004年6月23日~7月6日 北千住駅前大型ビジョンにて放映(区産業経済部管轄)
- 2004年7月27日 日経新聞夕刊「図書館拠点に女性が起業」

シンポジウムでの紹介をきっかけに小さな図書館の小さなステップが公共図書館の世界に、波紋をおこすことになったのかも知れない。

3. 竹の塚のビジネス支援図書館事業のポイント

竹の塚図書館でのビジネス支援事業をサポートしてくれたものは、何だったのか以下のとおり要因をあげてみた。

小さなスペースの図書館

事務室等もふくめ544㎡という規模は足立区内の15ある地域図書館でも下から4番目に狭い。しかし狭いから目が届くということもある。また危機管理のため1時間に1度館内を廻っている。そのときビジネス支援掲示板の利用状況を把握したり、期限が過ぎたポスター等を撤去できる。起業予定者と言葉をかわしたのもフロアワークにおいてである。よく来館する利用者、リクエストの多い利用者とは顔見知りになっている。いわば、スーパーではなくて八百屋さんの対面販売である。

少ない資料費

資料費が少ないためビジネス支援に役立つものは何でも利用している。例えば当館に送付されてくる書類はすべて目を通す。郵便物、都内、区内交換便で来るもの、宅配便、FAX配信等その中からビジネス支援掲示板にふさわしいものを選ぶことが出来る。他の機関と連携することにより無料で様々な資料を入手することも心がけている。

少人数の職員

竹の塚図書館では職員とのコミュニケーションがきめ細かく出来る。しかし毎日ミーティングする余裕は人員配置上出来ない。また2班体制なのでローテーション上1週間以上会えない職員もいる。この点は、必要事項や内外のニュースを細かく回覧し仕事しながら話合うことでなんとかカバーしてきた。メディアで紹介されたビジネス支援に関する記事や図書館雑誌など図書館界の話題、出席したシンポジウムの内容、見学してき

た図書館の話、その都度しているうちに、職員の方から「こんな記事見つけました。」と
言ってくれるようになった。ビジネス支援サービスを含め図書館で働くことの意義を感
じてくると自然と仕事や資格取得の目標を持ちやすくなるようだ。

ビジネス支援図書館推進協議会

数回のシンポジウム、モデル図書館でのセミナー、ビジネスライブラリアン講習会。
また、メーリングリストから、実に多くの情報と人脈を得た。

このように考えるとやる気と人脈以外は、当初何もなかったことがわかる。しかし、む
しろその事が竹の塚のビジネス支援図書館事業を育ててくれたのである。

4. 事業の成果

過去2年間にわたる事業展開で竹の塚図書館が得た成果は以下のとおりである。

図書館の利用者がきものリサイクルショップを開店した。

インキュベーターとしてのビジネス支援図書館の役割を果たせたのではないか。

ビジネス支援掲示板や周りのチラシやファイルが良く利用されている。

さらに他機関と連携することが出来た。

中央図書館と...過去何度もビジネス支援図書館やサービスについて提言

区産業経済部と...新産業支援課・雇用促進担当など

ヤングジョブスポット北千住・国民生活金融公庫・足立起業家交流会

職員のうち少なくとも5名が司書資格取得を目指して通信教育で勉強中である。

また、任期満了に伴って退職した嘱託職員に推薦文など書いて受講をすすめた結果
夏季司書補講習を受講、資格取得後職場復帰したりして、当館の司書資格者は、既
得の者5名、取得中の者5名計10名となった。事業の推進が職員のレベルアップに
繋がっている。

以上のとおり、ビジネス支援図書館事業が竹の塚図書館にいくつかの成果を生み出すこ
とができたのは、事業を進めた担当者としても館長としても大変幸いなことであった。

5. これからの事業展開を考える

2002年7月着手した竹の塚図書館のビジネス支援も2年後の現在、ビジネス支援掲示
板からビジネスコーナーに広がり、情報量も格段に増えた。しかし一方で様々な問題も
抱えている。

従来の資料費さえ削減される中でどのようにビジネス資料を確保していくか。

中央図書館や自治体内外他機関とのさらなる連携をどう進めていくか。

利用者のビジネスニーズをどう引き出し、答えていくか。

当区は既に一部実施中であり、23区の大半で導入あるいは導入検討しているとい

う図書館窓口業務委託とどうかかわっていくか。

地方自治法の改正により指定管理者制度が導入され、指定管理業者に、館長も含めて丸投げ委託することになるような公共図書館行政の動きにどう対処するか。

職員のビジネス支援スキルをさらに高めるためにどうすればよいか。

問題を数え上げればきりが無い。しかし、問題があるから変化することが出来る。変化をどう進歩に結びつけるかが大事な点である。

今後、当館のビジネス支援事業を発展させるためには利用者との関係が最も重要な点であろう。さらにビジネス支援図書館事業をすすめるには、浦安市の「ビジネスコミュニティ浦安」(6) のような方法がふさわしいかも知れない。

また、起業家が陥る不安、孤独を身近で敷居が低く利害関係がなく、守秘義務のある公共図書館が支えることが必要である。そのためには日本でも、アメリカの SCORE (7) のような支援機関が立ち上げられないだろうか。社会人としての様々な経験を生かすことにより共に図書館でビジネス支援をしていくことができたら素晴らしいことだと思う。

現在の竹の塚のビジネス支援掲示板を図書館からの発信板だけでなく利用者からの発信板でもあるような形にも発展させていきたいと思う。このことは利用者が何を望んでいるのか知ることにつながるだろう。

今回恵まれて、第一回のビジネスライブラリアン講習に参加することができた。講習内容もさることながら、ビジネス支援図書館を始めようとしている全国の図書館員と交流できたことは大変有意義であった。これからの事業展開で人材のネットワークも大きな武器になることは言うまでもないことである。

おわりに

竹の塚図書館の実践から、筆者はどんな小さな図書館でもビジネス支援は必ず効果を発揮すると信じている。なぜなら図書館のビジネス支援が暗に伝えているメッセージは「価値があるのは単に情報ではなく情報と人のネットワークである。」ということだからである。

ビジネス支援図書館では無限の情報の中から情報の取捨選択を行い、編集して発信し、さらにそこでは図書館員と様々な協力者が関係し、利用者同士の交差点ともなっている。ここを足がかりとして利用者は、情報と人のネットワークという海に船出することが可能となるのである。今後とも多くの図書館がビジネス情報のポータルサイトとして利用されることを願っている。ひいては図書館におけるビジネス支援が地域の振興に繋がり、大きくは日本の活性化に寄与することを祈念している。

注

- 1 菅谷明子著「進化する公共図書館」中央公論 1999年8月号
- 2 ビジネス支援図書館推進協議会 <http://www.sangyo-npo.jp/library/>
- 3 図書館員選書 14「地域資料入門」三多摩郷土資料研究会編 日本図書館協会
- 4 R I E T I 独立利行政法人 経済産業経所 <http://www.rieti.go.jp/jp/index.html>
- 5 ヤングジョブスポット北千住...運営主体独立行政法人 雇用・能力開発機構東京センター 若者を対象にした【じぶん探検・なかま発見・しごと体験】の場
- 6 ビジネスコミュニティ浦安...市民参加(主導)型のワーキンググループ 浦安市立図書館サービスのサポーターとなるべく期待されている
- 7 SCORE...スコア リタイアした元経営者でつくる無料のビジネスカウンセリングのNPO 全米に約400の支部、1万人以上のカウンセラーを擁する

参考文献

- 「未来をつくる図書館」 菅谷明子著 岩波新書
- 「浦安図書館にできること」 常世田良著 勁草書房
- 「指定管理者制度、『改正』地方自治法244条の概要」 東京都自治問題研究所
現代の図書館 vol.41 no.2 2003.6 特集「地域に根ざしたビジネス支援事業」
図書館雑誌 vol.98 no.6 2004.6 特集「指定管理者制度と公共図書館経営」
みんなの図書館 no.326 2004.6 「東京23区の図書館の窓口業務委託調査からわかること」